

【23 九商フェリー Kyusho Ferry】



熊本港沖の上空から(※単胴船のため、航跡の太い泡の帯は2本)

九商フェリーでは、熊本港～島原港の航路上のあらゆる区間で“**東面の雲仙岳**”が眺望できます。本航路から見える**雲仙岳**は概ね左右対称で、鷲や鷹がこちらを向いて翼を広げているような、左右に長い裾野が特徴的です。火山島のような島原半島に刻々と近づいていく情景は、“ジュラシックパークの恐竜島に向かっているようだ”と表現する人もいます。また、航路からは**阿蘇山**も眺望できることがあり、**阿蘇山と雲仙岳**の間の歴史的な**大三角形**(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。

本航路は、国道 57 号線の一部に位置づけられていた三角島原フェリー(平成 18 年まで運航)の代替航路として、熊本方面と島原半島をつないでいます。この国道 57 号線は、もともと阿蘇くじゅう国立公園と雲仙天草国立公園をつなぐルートとして、別府観光の父・油屋熊八氏が提案した九州横断道路(別府市～くじゅう～阿蘇カルデラ～熊本市～雲仙～長崎市)の一部となっています。

九州を旅した江戸後期の多才な知識人・頼山陽(漢学者、歴史・文学・美術など多方面で活躍)は、佐賀・長崎・天草と巡りながら**雲仙岳**を漢詩に歌いましたが、天草から熊本に向かう船中では**阿蘇山と雲仙岳**が有明海をはさんで向かい合う様子を漢詩に歌っており、フェリーで追体験が可能です。また、本航路は、幕末に勝海舟・坂本龍馬の一行が江戸から長崎へ出張する際、豊後街道を通り、有明海を渡って**雲仙岳山麓**の街道を通り、長崎に到達する過程で採用した航路です。

本航路では、イルカ的一种“スナメリ”が見られます。スナメリは、全国各地の干潟があるような浅い海に生息していて、有明海・橘湾では約 3000 頭が季節的に回遊しながら生息しているとされますが、波の静かな日にはフェリーから数頭のスナメリを発見できます。スナメリも多く生息する有明海の干潟は、全国一の規模を誇っていますが、その泥は、かつての**阿蘇山**の大噴火による噴出物を筑後川や菊池川、白川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、**雲仙岳そびえる島原半島**が有明海の水の出入口を狭めているためです。

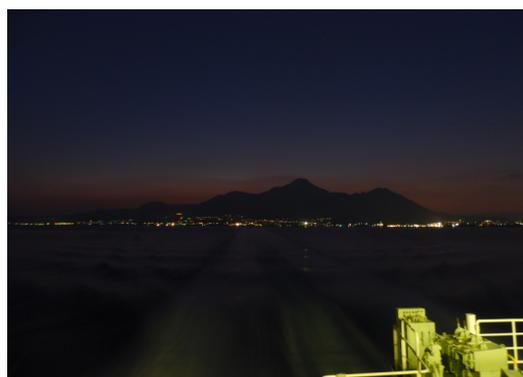
雲仙岳の様々な表情を探しながら、九商フェリーで旅してみませんか？

●九商フェリーの情報はこちら ⇒ 九商フェリー株式会社 <http://www.kyusho-ferry.co.jp/>



林 信介氏

熊本港から



熊本港沖から